

平成 30 年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題


子どもの食と栄養

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) …       

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文のうち、「食生活指針」(平成28年改定：文部科学省、厚生労働省、農林水産省)の一部として正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 適正体重を知り、日々の活動に見合った食事量を。
- B 日本の食文化や地域の産物を活かし、郷土の味の継承を。
- C 食塩や脂肪は控えめに。
- D 食料資源を大切に、無駄や廃棄の少ない食生活を。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問2 次の文は、「平成28年国民健康・栄養調査」(厚生労働省)に関する記述である。正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 肥満者 (BMI \geq 25kg/m²) の割合は、男女ともこの10年間でみると、有意に減少している。
- B やせの者 (BMI $<$ 18.5kg/m²) の割合は、この10年間でみると、女性では有意に増加している。
- C 食塩摂取量の平均値は、約10g/日であり、この10年間をみると、男女とも有意に減少している。
- D 野菜摂取量の平均値は、約300g/日であり、この10年間をみると、男女とも有意に増加している。
- E 朝食の欠食率を年齢階級別にみると、男女ともにその割合は30歳代で最も高い。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 B C
- 3 B D
- 4 C E
- 5 D E

問3 次の【Ⅰ群】のビタミンと、【Ⅱ群】の欠乏症を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A ビタミンA
- B ビタミンB₁
- C ビタミンC
- D ビタミンD

【Ⅱ群】

- ア 脚気
- イ くる病
- ウ 壊血病
- エ 夜盲症

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ | エ |
| 2 | イ | ウ | エ | ア |
| 3 | ウ | ア | エ | ア |
| 4 | エ | ア | ウ | イ |
| 5 | エ | イ | ア | ウ |

問4 次の文は、ミネラルの生理作用に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A ナトリウムは体液の浸透圧を調節する。
- B カリウムは骨・歯を生成する。
- C カルシウムは血液凝固に関与している。
- D 亜鉛は酵素の構成成分であり、欠乏の症状の一つに味覚異常がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	○	×	○	×
5	×	×	×	○

問5 次の文は、「日本人の食事摂取基準（2015年版）」における「活用に関する基本的事項」に関する記述である。（A）～（D）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

（A）個人又は（B）を対象として、健康の保持・増進、（C）の予防のための（D）に、食事摂取基準を活用する場合は、PDCAサイクルに基づく活用を基本とし、各プロセスの実際を図に示した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	健康な	家族	生活習慣病	食事管理
2	慢性疾患のある	家族	過剰症	食事管理
3	健康な	集団	過剰症	食事改善
4	慢性疾患のある	家族	生活習慣病	食事改善
5	健康な	集団	生活習慣病	食事改善

問6 次の文は、「授乳・離乳の支援ガイド」（平成19年：厚生労働省）における「離乳食の進め方の目安」に関する記述である。（A）～（D）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

離乳の開始では、（A）の心配の少ないおかゆ（米）から始める。新しい食品を始める時には一さじずつ与え、乳児の様子をみながら量を増やしていく。慣れてきたらじゃがいもや野菜、（B）、さらに慣れたら（C）や白身魚など、種類を増やしていく。

なお、はちみつは乳児（D）症予防のため1歳未満の乳児には与えない。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	アレルギー	パン	鶏肉	ノロウイルス
2	アトピー	果物	豆腐	ボツリヌス
3	アレルギー	果物	豆腐	ボツリヌス
4	アレルギー	果物	鶏肉	ノロウイルス
5	アトピー	パン	鶏肉	ボツリヌス

問7 次の文は、「平成27年度乳幼児栄養調査」（厚生労働省）における「乳幼児の栄養方法や食事に関する状況」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 授乳期の栄養方法は、10年前に比べ、母乳栄養の割合は減少している。
- B 妊娠中に、「ぜひ母乳で育てたいと思った」、もしくは「母乳が出れば母乳で育てたいと思った」と回答した者の合計は、全体の8割以下であった。
- C 「授乳について困ったこと」で最も回答数が多かったのは、「母乳が足りているかどうか分からない」である。
- D 混合栄養も含め、母乳を与えている割合は、生後3か月で約90%である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問8 次の文は、「授乳・離乳の支援ガイド」（平成19年：厚生労働省）における「離乳食の進め方の目安」に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A 生後5、6か月頃では、母乳やミルクは飲みたいだけ与える。
- B 生後7、8か月頃の＜食べ方の目安＞の一つとして、「1日3回食で食事のリズムをつけていく」ことが示されている。
- C 生後9か月から11か月頃の＜食事の目安＞では、調理形態は「歯ぐきで噛める固さ」とされている。
- D 生後12か月から18か月頃の＜食事の目安＞では、穀類は軟飯～ご飯の移行期とされている。

（組み合わせ）

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B D

問9 次のうち、「日本人の食事摂取基準（2015年版）」において、妊婦の食事摂取基準として、目安量が示されているビタミンの正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A ビタミンA
- B ビタミンC
- C ビタミンD
- D ビタミンE
- E ナイアシン

（組み合わせ）

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 C D
- 5 D E

問 10 次の文は、「保育所保育指針」第3章「健康及び安全」の1「子どもの健康支援」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

アレルギー疾患を有する子どもの保育については、(A)と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行うこと。また、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、当該保育所の体制構築など、安全な(B)の整備を行うこと。看護師や(C)等が配置されている場合には、その(D)を生かした対応を図ること。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	保護者	指導体制	栄養士	専門性
2	病院	指導体制	栄養士	専門性
3	保護者	環境	嘱託医	医学性
4	病院	環境	嘱託医	医学性
5	保護者	環境	栄養士	専門性

問 11 次の文のうち、「保育所保育指針」第3章「健康及び安全」の2「食育の推進」の一部として、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 保育所における食育は、健康な生活の基本としての「健康な体をつくる力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とすること。
- 2 保育所における食育は、家庭生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とすること。
- 3 保育所における食育は、健康な運動習慣の基本としての「健康な体をつくる力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とすること。
- 4 保育所における食育は、健康な生活の基本としての「運動習慣の基礎」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とすること。
- 5 保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とすること。

問 12 次の文は、「保育所保育指針」第3章「健康及び安全」の2「食育の推進」の一部である。(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む(a) 保育の計画を全体的な計画に基づいて作成し、その(b) 評価及び改善に努めること。
(c) 嘱託医が配置されている場合は、(d) 医療性を生かした対応を図ること。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	○	×	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×

問 13 次の文は、「保育所保育指針」第3章「健康及び安全」の2「食育の推進」に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 子どもがきちんとした食事マナーの中で、意欲をもって好き嫌いをなくす体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであること。
- 2 子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように配慮すること。
- 3 子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮すること。
- 4 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組が進められること。
- 5 市町村の支援の下に、地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努めること。

問 14 次の文は、「授乳・離乳の支援ガイド」(平成 19 年：厚生労働省)における 1 日の食事量の目安に関する記述である。家族(成人)の食事量を基に考えた時に、12～18 か月頃の子どもの 1 日の食事量がそのどれくらいの量にあたるかを整理した記述について、(A)～(D)にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

主食、副菜、主菜はそれぞれ(A)程度。果物は 1/2 程度。まだ十分に(B)ができないので繊維質のかたい葉物や(C)などは控えて。薄味で。主菜として(D)を使うこともできる。

【語群】

ア	1/2 弱	イ	1/3 弱	ウ	嚥下	エ	咀嚼	オ	穀類	カ	肉類
キ	乳製品	ク	卵類								

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | オ | キ |
| 2 | ア | ウ | カ | ク |
| 3 | ア | エ | カ | キ |
| 4 | イ | ウ | オ | キ |
| 5 | イ | エ | カ | ク |

問 15 次の文は、「学校給食法」第2条における学校給食の目標に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- B 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- C 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- D 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- E 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	×	○
3	×	○	○	○	×
4	×	○	×	×	×
5	×	×	○	×	×

問 16 次の文は、「児童福祉施設における食事の提供ガイド」（平成 22 年：厚生労働省）における乳児院についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 乳児院では、その入所理由として、家庭事情により養育ができない、あるいは虐待による保護等が多く挙げられており、様々な配慮が必要である。しかし、入所以前の食に関する状況は、良好である場合が多い。
- B 乳児院での日々は、生後まもなくの授乳期から離乳期、幼児期へと、生涯にわたる食の基礎を作る重要な時期であるため、集団給食でありながらも個々の状況を把握し、栄養管理を行うことが求められる。あわせて食事の環境にも配慮が必要である。
- C 乳児院では、調理担当職員、保育担当職員などそれぞれの職種ごとに職員が交代で業務を行っているため、離乳食の移行や、アレルギー、障害等による個別対応などの指示内容は、確実に伝達されるよう伝達手段を工夫するなどして、安全・確実に食事の提供が行えるように配慮が必要である。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	×
4	×	○	○
5	×	×	×

問 17 次の文は、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成 24 年：厚生労働省）第 3 章「保育所における食事の提供の具体的なあり方」の 1「食事の提供の具体的なあり方」の一部である。(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

子どもは食事のすべてを自ら準備したり、整えたりすることはできない。従って、食事の提供のあり方によっては、単に、食事を提供される受身になってしまうことさえある。子どもが自立した食の担い手、食べる主体として育つためには、(a) 自分を育ててくれる人、(b) 食事を作ってくれる人、(c) 食事を配膳し整えてくれる人、(d) 一緒に生活してくれる人の存在に気づき、こうした人々の思いに気づく体験が積み重ねられることが望まれる。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	×	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問 18 次の文は、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成 24 年：厚生労働省）第 3 章「保育所における食事の提供の具体的なあり方」の 1 「食事の提供の具体的なあり方」の一部である。(a) ～ (c) の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

子どもの健やかな育ちを支える保育所において食事を提供するにあたっては、保育者等が子どもの身体発育・発達、(a) 脳の機能、食欲、味覚の発達過程を丹念に(b) 評価する能力をもつとともに、その発達状況に応じて、食品の種類、量、大きさ、(c) 固さ、食具等を配慮し、食に関わる体験が広がるよう工夫することが重要である。

(組み合わせ)

	a	b	c
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	×
4	×	○	○
5	×	×	○

問 19 次の文は、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成 24 年：厚生労働省）第 3 章「保育所における食事の提供の具体的なあり方」の 2 「食事の提供の留意事項」の一部である。（ A ）～（ D ）にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

延長保育については、おやつでは食事摂取基準の（ A ）程度、夕食であれば（ B ）程度を目安とするが、一人一人の子どもの（ C ）や健康状況、生活の環境に応じて対応できるようにする。担任以外が関わることもあるので、個別に配慮が必要な子どもの状況の把握には細心の注意が必要である。また、ゆったりとくつろげる環境で、（ D ）できるように心がける。

一時保育については、継続的な保育ではないので、事前の面接などにより子どもの状況の把握や受け入れ当日の健康状態などの把握を十分に行い対応する。

【語群】

ア 50%	イ 10%	ウ 25～30%	エ 70%	オ 年齢	カ 機嫌
キ 共食	ク 個食				

（組み合わせ）

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ア | イ | オ | キ |
| 2 | イ | ウ | オ | キ |
| 3 | イ | ウ | オ | ク |
| 4 | ウ | イ | カ | キ |
| 5 | エ | ウ | カ | ク |

問 20 次の文は、「児童福祉施設における食事の提供ガイド」（平成 22 年：厚生労働省）における児童養護施設についての記述である。（ A ）～（ E ）にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

児童養護施設においては、子どもたちの健やかな発育・発達を促す食事の提供、（ A ）自立にむけた栄養・食生活支援につながる（ B ）を推進することが必要である。食育の推進においては（ C ）・栄養士が中心となり、多職種で連携を図りながら、（ D ）、食事提供に関する計画を立て、実践することが大切であり、個別の（ E ）における食に関する内容を考慮し、一体的かつ継続的な支援を行うことが求められる。

【語群】

ア 経済的	イ 社会的	ウ 精神的	エ 保健指導	オ 食育
カ 管理栄養士	キ 保育士	ク 保育の計画	ケ 食育計画	
コ 自立支援計画				

（組み合わせ）

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 1 | ア | エ | カ | ク | ケ |
| 2 | ア | オ | キ | ケ | ク |
| 3 | イ | エ | キ | コ | ケ |
| 4 | イ | オ | カ | ケ | コ |
| 5 | ウ | エ | キ | ケ | コ |